

アクリバトリノバ Pro。 そうだったのか?! Proのあれこれ。

日時 2026年6月27日(土)
16:40~17:40

会場 第2会場
東京国際フォーラム
ホールB7(2)



座長

鈴木 久晴 先生 (善行すずき眼科)



演者1

Profile (製品特性)、あれこれ!

野口 三太郎 先生 (ツカザキ病院/ASUCAアイクリニック仙台マークワン)



演者2

Proof (エビデンス)、あれこれ!

森井 勇介 先生 (森井眼科医院)



演者3

Profit (利点) & Problem (課題)、あれこれ!

鈴木 久晴 先生 (善行すずき眼科)

【座長抄録】

”Pro”というワード(接頭/接尾語)は、専門的、高性能、高機能を強調する用語で、従来製品の進化版製品に用いられることが多く、最近では、スマートフォンやOTC医薬品などで目にする機会も増えている印象がある。

IOLの世界にも、このProのトレンドが訪れつつ(?)あり、グローバル市場に於いてProと名の付くIOLは複数モデルが登場しているが、最初に登場したのが、アクリバトリノバの進化版としてのアクリバトリノバProである。

そしてこの6月に、発売1周年を迎えることとなった。

本セミナーでは、Proになぞらえ、Profile (製品特性)・Proof (エビデンス)・Profit (利点)・Problem (課題)の切り口で、3名のエキスパート(Pro) サージャンより、アクリバトリノバProのあれこれを、発売1周年に相応しく総合的に紐解いてみたい。

アクリバトリノバ Pro。 そうだったのか?! Proのあれこれ。

座長



鈴木 久晴 先生(善行すずき眼科)

2001年 日本医科大学医学部 卒業
2003年 日本医科大学眼科学教室 助手
2006年 神栖済生会病院 眼科医長
2010年 日本医科大学眼科学教室 医局長・病院講師
2011年 日本医科大学武蔵小杉病院 眼科医局長・講師
2012年 日本医科大学武蔵小杉病院 眼科部長
2016年 日本医科大学武蔵小杉病院 眼科 准教授
2018年 善行すずき眼科 院長
日本医科大学 非常勤講師

演者1



Profile(製品特性)、あれこれ!

野口 三太郎 先生(ツカザキ病院/ASUCAアイクリニック仙台マークワン)

アクリバトリノバProには特徴的な正弦波回折が用いられているが、この正弦波という考え方は他の分野でも応用されており、決して珍しいものではない。

また、アクリバトリノバProは前身モデル・アクリバトリノバより中間加入度数が+1.5Dから+1.7Dへ、近方加入度数が+3.0Dから+3.35Dへと変わっただけのような印象を持たれがちだが、実はそれだけではなく、網膜への光エネルギー透過率も向上し、遠方/中間/近方への光エネルギー配分にも変化が施されている。

本講演では、正弦波回折とは何か、Traditionalな回折構造と何が異なるのか、アクリバトリノバからどのように進化し、何が期待されるのか、そのProfileを概説してみたい。

2006年 東北大学医学部 卒業
2006年 いわき市立総合磐城共立病院
2008年 東北大学病院 眼科
2010年 石巻赤十字病院 眼科
2012年 石巻赤十字病院 眼科 科長
2014年 特定医療法人 三栄会 ツカザキ病院 眼科医長
2021年 大阪大学大学院 博士課程修了
2022年 特定医療法人 三栄会 ツカザキ病院 眼科医長
ASUCAアイクリニック仙台マークワン 主任執刀医

演者2



Proof(エビデンス)、あれこれ!

森井 勇介 先生(森井眼科医院)

アクリバトリノバProは独自の正弦波回折構造によって、3焦点IOLでありながら、EDoFのような遠方から近方まで落ち込みが無くなだらかに変化する焦点深度曲線となるように設計されている。また、光エネルギー効率を高めることで、良好なコントラスト感度やハロー/グレア/スターバーストといった異常光視現象を軽減することも期待されている。

このような製品特性は、果たして実際の臨床においてどのような結果として表れているのであろうか?!

本講演では、アクリバトリノバProの術後視力や屈折傾向、異常光視現象の実際など様々な術後視機能項目に関し、Proof(エビデンス)を軸に、臨床パフォーマンスの実際について明示してみたい。

1999年 京都府立医科大学 卒業
京都府立医科大学 眼科学教室 入局
2000年 舞鶴赤十字病院 眼科
2002年 大阪府済生会中津病院 眼科
2007年 森井眼科医院 院長

演者3



Profit(利点) & Problem(課題)、あれこれ!

鈴木 久晴 先生(善行すずき眼科)

アクリバトリノバProは、回折構造のみならず、親水性・プレート型といった素材・デザインの点においても他のEDoF/3焦点/連続焦点-IOLと大きな違いがあるとともに、インジェクターも取り扱い上の留意点が必要となってくる。更には球面度数範囲が0.0Dから選択可能といった製品ラインアップにおいても特異性がある。

本講演では、光学的設計のみならず、製品仕様などの様々な特性/特徴がもたらすアクリバトリノバProのProfit(利点)とProblem(課題)を整理するとともに、プレート型IOLにおけるインジェクターのセッティングや挿入のコツなどを動画を用いて解説する。